

衆衛生学講座の野村恭子教授が「胃・大腸がんの全国的な傾向と予防」、消化器内科の飯島克則教授が「胃がんについて」、同科の志賀永嗣助教が「大腸がんについて」と題して、疾病の機序や特徴、早期の治療や日ごろの予防の重要性に関して講演した。

続いて、堀井啓一秋田県副知事が、がん死亡率が全国ワーストで死因の上位を占める消化器がんに関する同県の現状について説明。県を挙げての取り組みを紹介するとともに、島仁秋田県医師会常任理事が消化器がんの検診の重要性について講演を行った。

講演後の舞台には、ゲストで漫才コンビの宮川大助・花子さんが登場。花子さんは33歳で胃がんの手術を受け、その後の闘病生活で病を克服しており、発症から今日までの道のりを、笑いを交えて披露した。

また、尾野恭一医学部長の司会による専門

### 広島大短期交換留学プログラム

#### HUSA留学生が呉市吉浦かに祭りを見学

9月26日に広島大学に到着した広島大短期交換留学プログラム(HUSA)留学生34人(北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジア出身)が、10月1日に開催された呉市吉浦八幡神社に伝わる「かに祭り」(秋大祭)を見学した。国際センターの恒松直美准教授がHUSAプログラム留学生を呉市吉浦かに祭り見学に引率するのは今年で

15回目。日本文化に興味を持つ留学生

生は毎年この行事を楽しみにしている。

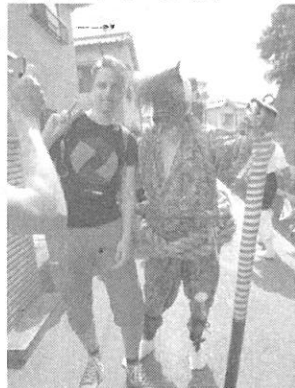
五穀豊穡と豊漁を願い、各地区から出される神輿(みこし)やお船が神社に向かい、鬼や「はくろう」(馬喰)馬牛の仲間人が竹棒をもって道を作っていく様子に、留学生は見入っていた。

「ソーリやさげた」の掛け声とともに、「ちようさい」と呼ばれるだんじりや神輿、漁師さんのお船をかついで行き来する地域の人々の一生懸命な姿に、留学生も感動した様子だった。

地域儒学院も世界各国の留学生が日本の伝統的祭りを楽しみつづ、日本文化について学ぶ姿を暖かく見守っていた。留学生がバスを降りると、今年も「はくろう」が待っていた。さらに、地域住民が用意してくれた鉢巻をつけ、日本の伝統的祭りを満喫した。



日本の地域に残る伝統的祭りの雰囲気を感じ



祭りの名物「鬼」と対話する留学生



附属病院で胃内視鏡のシミュレーターを体験する宮川大助・花子さん

医とのパネルトークでは、来場者から事前に寄せられた質問に答える形で、検診の大切さや家族の支えの大きさなどを語った。最後に伊藤宏副学長の「本日の学びを周りの方々にも伝えてほしい」との挨拶で締めくくった。

大助・花子さんは、前日に附属病院を訪問し、消化器がんに対する最新の検査と治療の現場を見学した。